

教育行政推進の基本姿勢

根室市の教育は、平成27年度に策定した第9期根室市総合計画に基づき、市民一人ひとりが生涯を通じて学び、活躍し、住み慣れた故郷の豊かさを実感できるまちづくりを目指すとともに、「子どもたちが「社会を生きる力」を育む教育活動の充実」並びに、「市民みんなが学び、高め合える生涯学習の振興」基本として、教育行政を推進してまいります。

1. 持続可能な社会の創り手を育てる学校教育の充実

新型コロナウイルス感染症がもたらした大きな社会変容の中で、様々な課題を自分事として捉えながら、「何ができるか」を主体的に考え、ニューノーマルと呼ばれる新たな常識を創造する、変革の推進力となる人材の育成が求められております。

持続可能な社会の創り手を育てる学校教育では、レゴブロック型の資質能力を育成する教育の充実と、障がいのみならず、人種の別や男女差、性についての指向性、社会的地位や背景の違いなど、あらゆる差別を乗り越えて、一人ひとりの個性と価値観を認め、自分らしく在るための選択や決定を尊重する、インクルーシブ教育を実現し、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の資質・能力の育成に向け、取組を進めて参ります。

【主な取組】

- 学力向上に向け、教員の積極的な授業改善の取組を後押しするほか、校長・教頭・教諭の代表と教育委員会で組織する「学力向上プロジェクト推進会議」や、市全体教育課題の解決に向けた。教員による研修組織「根室市学校連携教育研究会」への支援継続など、児童生徒に対する指導方法をさらに工夫・充実させ、市全体の学力向上につなげて参ります。

- 国や北海道からの教員加配に加え、市街地区中学校への市独自加配や学力向上等補助教員の確保に努め、個に応じたきめ細かな学習指導を進めて参ります。
- 市内唯一の高校である根室高校には「北海道根室高等学校教育振興会」を通じ、高校生へのパソコン貸与や資格取得等への交付金支給、「総合的な探究の時間」で展開される地域巡検などの教育活動への支援に加え、一人ひとりの進路の実現に向けて個別最適な学びを保障するA I 学習教材を導入するほか、J R通学をしている高校生へ定期券購入費の全額を助成し、市長部局が取り組む路線バス利用促進事業と併せ、居住地によって生じる経済的な負担格差の解消に繋げるなど、支援拡充に取り組んで参ります。
- 花咲港小学校を障がいのある子どもも、ない子どもも共に学ぶことができる、インクルーシブ教育を柱として新たな教育スタイルを創出する学校と位置付け、北海道立特別支援教育センターとの連携体制を構築し、障がいの種類や程度に応じた専門的な教育を受けられる教育環境の整備を進めて参ります。
- 特別な支援を必要とする児童生徒の学習活動への支援として、特別支援教育支援員や介助業務員の配置や、放課後教室等指導員による学習サポートなどを継続して参ります。
- 教育の情報化に向けて、「全国学力・学習状況調査」のオンライン実施など、国による教育のI C T化の推進などの動向を注視しつつ、デジタル教科書の本格導入に向け、協議を進めます。
- 1人1台端末を最大限に活かした授業改善を進めるとともに、本年度より、小中学生が、家庭学習においてもタブレットを活用してA I 学習教材等に取り組めるようにし、小学生から高校生まで一貫して、学校でも家庭でもI C Tを活用して学びを深める体制を整え、新たな価値を創出する「教育D X」を推進して参ります。

- 教員のICT教材の活用能力の向上に向けた研修機会の確保や、子どもたちのネットモラル教育の充実、さらには、タブレット端末を活用した不登校等の児童生徒に対する学びの保障に努めるなど、きめ細かな支援や対応を図り、「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け取り組んで参ります。
- 道徳教育については、道徳科を要として進めるとともに、問題意識の醸成と望ましい人間関係の形成を目的に、「いじめ問題」をテーマとして小中学生が一堂に会し議論する「子ども会議」を開催するなど、子どもたちが自らの生き方を主体的に考え、行動し、自立した社会人として成長していくための基礎となる道徳性の涵養に向け、あらゆる教育活動を通じて取り組んで参ります。
- 長引くコロナ禍で制限された生活に起因する子どもたちの対人関係のトラブルやいじめ問題などに迅速に対応するため、市独自のカウンセリング体制の整備を図って参ります。
- 学校の教育活動全体を通じてジェンダー平等への理解を促し、一人ひとりの児童生徒が、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し合える教育の充実に取り組んで参ります。
- 子どもたちの基本的な生活習慣の確立に向け、各家庭でゲーム機や携帯などの使用時間を決める「スイッチオフ22」運動や、ネットトラブルの被害者や加害者にならないよう、タブレット端末やインターネットの利用に関する家庭内でのルールづくりなどについて啓発促進に取り組んで参ります。
- コロナ禍により、家庭で過ごす時間が長くなったことにより子どもたちの体力低下が見られるとともに、特に冬期間においては、体を動かす機会が少ないことから、年間を通じ、スポーツや遊びを通じた体力向上機会の創出に取り組んで参ります。

- ふるさと学習については、北方領土返還要求運動原点の地として、領土問題に対する正しい理解と認識に向け取り組むとともに、姉妹都市黒部市との「オンライン交流授業」を継続発展させ、それぞれの自然、歴史、産業など、地域のもつ魅力や特性について学ぶ機会のさらなる拡充に努め、郷土ねむろを愛する教育を実践して参ります。
- 防災・減災教育の充実に向けては、高潮や豪雨、暴風雪をはじめ、切迫する千島海溝沿いの超巨大地震や大津波など、激甚化する大規模自然災害から、自らの命を守るために必要な知識や能力等が身に付くよう、市長部局や防災関係機関、地域と学校が参画するコミュニティ・スクール等と連携しながら、子どもたちの防災リテラシーの一層の向上を図って参ります。

2. 社会構造の変化の中で持続的で魅力ある

学校教育を実現する教育環境の充実

児童生徒数の減少が今後も見込まれる中、子どもたちが将来に夢と希望を持ち、学ぶ意欲や目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、一人ひとりの個性、能力、適性等に応じて自らの力を伸ばすことができる教育環境の整備を計画的に進めるため、本年度、「(仮称)根室市立学校適正配置計画」の策定に着手します。

【主な取組】

- 令和2年度に開校した歯舞学園、本年4月に開校した海星学校の取組の経過や成果を踏まえ、本年度、小学校校舎・体育館の改修及び中学校校舎の移転・改築に着手する落石地区や、中学校校舎の改築に向けた基本設計に着手する厚床地区など、他の学校への義務教育学校制度の導入について、検討・協議を進めて参ります。
- 老朽化が進む市街地校についても、必要な改修を適宜進めつつ、将来的な学校像を描きながら建築等について、検討を進めます。

- アスベスト含有等の課題から、延期している旧花咲小学校校舎の解体については、石綿含有調査の結果を踏まえ、校舎解体設計に取り組みます。
- 学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支える「コミュニティ・スクール」については、円滑な活動に向け、コミュニティ・スクールアドバイザーによる支援を継続するほか、全国組織との交流などの機会を通じ、取組の充実を図ります。
- 学校給食については、「根室市学校における給食に関する検討委員会」において、施設のあり方、安全性、食育の充実などについて意見が出されていることを踏まえ、市長部局との協議を進め、早急に将来の方向性について検討して参ります。
- 子どもたちの健やかな成長に向け、児童生徒の学校給食費の無償化を継続するとともに、地場産食材による給食を提供する「ふるさと給食」を実施し、食育の充実を図って参ります。
- 全国的に教員不足が深刻化していることから、将来の教員確保に繋げるため、相互協力協定を締結している北海道教育大学と連携し、複式教育を学ぶ教育実習生の受け入れや、大学生による小中学生を対象とした交流授業の実施検討など、根室市の教員確保に向け、大学との連携を強化して参ります。
- 「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づいて、校務支援システムによる教員在校等時間の把握・管理に努めるなど、校長会や道教委とも連携し、教員の働き方改革を着実に進めて参ります。

3. 社会教育・生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興

子どもたちの豊かな感性や情操を育成するためには、あらゆる年代の人々との交流や様々な体験を得られる環境づくりが求められることから、地域コミュニティが中心となり、地域で子どもを育てる社会教育の充実を図ることが大切です。

また、全ての市民が心豊かで健康な生活を送るためには、文化・スポーツや地域

の歴史に親しみながら、生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かせる環境づくりが大切であると考えており、市民一人ひとりの可能性を引き出すための機会づくりとなるような事業展開を工夫するなど、生涯学習活動の充実に努める必要があります。

【主な取組】

- 社会教育を推進する拠点である公民館活動として、地域課題の共有と支え合いをテーマに市民同士が語り合う「根室子どもピアサポート事業」を引き続き開催するほか、子どもたちが世代を超えて交流できる体験活動や、若者からお年寄りまでのニーズを捉えた各種講座・事業の実施など、市民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」場としての公民館活動の充実に努めます。
- さらには、教育委員会の若手職員で横断的に組織するワーキンググループによる、根室の身近な素材を生かした映像の制作など、学校教育や社会教育活動に資するコンテンツ発信などに取り組んで参ります。
- 本年、開館30周年を迎える総合文化会館については、「根室市総合文化会館事業協会」や「根室市文化協会」等との協働により、NHK のど自慢など各種の記念事業を開催するとともに、昨年移設した飯田三郎資料展示室の更なる普及・啓発を進め市民の芸術文化活動の発展・支援に努めて参ります。
また、施設整備として、小ホール舞台吊物改修や小・多目的ホール照明のLED化など、計画的な整備を進めて参ります。
- 子どもたちの社会教育関係事業への主体的な参加を奨励する「ねむろわんぱくチャレンジ」について、昨年のリニューアルに引き続き、対象事業の拡充を図るなど、経験を通じた成長を後押しして参ります。

- 青少年の健全な育成については、「青少年相談室」や「子どもリーダー研修会」など、地域や関係団体との連携を密にしつつ、一層の充実に向けて取り組んで参ります。
- 放課後教室等につきましては、土曜日や学校の長期休業中の開館時間についての保護者ニーズを把握し、子どもたちが安心・安全に多様な体験・活動を行う事ができる居場所の更なる充実に努めて参ります。
- 昨年度、根室市指定天然記念物に指定した、国内唯一の低標高で形成されたブランケット型湿原である「歯舞湿原」は、生物多様性保全の観点からも重要な場所であり、専門家のアドバイスも受けながら、根室市文化財調査委員会において、保存と活用の具体的な内容について検討を進めて参ります。
- 史跡の活用につきましては、アイヌ施策推進交付金等を活用しながら、根室半島チャシ跡群のプロモーション事業を実施するほか、西月ヶ岡遺跡の保存や整備に向け、測量調査等を実施して参ります。
- 日本遺産につきましては、管内1市3町で構成する「鮭の聖地メナシネットワーク」において、道内外での資料展示等のプロモーション活動のほか、企業版ふるさと納税による寄附を活用し、北構保男氏寄贈のオホーツク文化資料等の三次元データの作成や公開に向け取り組んで参ります。
- 図書館については、コロナ対応を含め、安心して利用できる環境や蔵書の整備・充実を図り、生涯学習施設として、市民の読書意欲の向上を図るとともに、「子どもブックライフ応援事業」を継続実施し、乳幼児から学童期まで途切れなく、多くの本と出会う環境整備に努めて参ります。

また、学校図書館と連携し、図書館司書による学校図書の実充や、効果的な書架整理に向けた支援など、児童生徒の学習活動はもとより、図書を通じた様々な交流が広がるよう取り組んで参ります。

- スポーツの振興につきましては、市民が健康で活力に満ちた地域社会を築くため、「市民一人1スポーツ」を目指し、生涯にわたってスポーツ活動に親しむことができるよう、環境整備に努めるとともに、関係団体と連携・協力しながら、スポーツに触れ合う機会の充実に努めます。
- 障がい者スポーツについて、社会体育施設使用料の減免を行うなど、スポーツがより身近に感じられる取組を進めて参ります。
- 「最東端ねむろシーサイドマラソン」につきましては、コロナ禍により、オンライン開催を余儀なくされておりましたが、市民の健康増進、全国のランナーとの貴重な交流の機会となり得る競技大会となるよう、リアル開催に向け取組を進めて参ります。
- 「みらいのアーティスト・アスリート応援事業」を継続し、各種大会への参加助成をはじめ、トップアスリート・アーティストによる講演会などの交流を通じ、日本や世界での活躍を目指す子どもたちを後押しして参ります。
- 社会体育施設については、パークゴルフ場管理棟・コミュニティハウス建替えに向けた基本設計に着手するとともに、市営球場の整備、総合運動公園スケートリンク周辺の改修など、スポーツに触れ合う機会の拡充に向け、環境整備に取り組みます。

また、市民要望が多く寄せられている、「(仮称) 根室市総合体育館」については、本年度、建設に向けた基本構想に着手し、市民皆様との議論を重ね、その実現に繋げて参ります。